

「第1回やさまち発見隊(阿蘇郡西原村)」

ご報告書

201年12月

熊本県やさしいまちづくり推進計画  
「やさまち発見隊モデル事業」

NPO 法人 UD くまもと

## 1. 本事業の目的

高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児連れの方が利用しやすい町並みの整備を推進するため、地域の子供グループなどに参加を依頼し、街中の使いやすい民間施設や、わかりやすい看板などの探索を実施する。

発見した優良施設や取り組みに対し地域の子供たち自らが表彰を行うことで、多方面への情報発信と普及啓発を目的とする。

## 2. 第1回やさまち発見隊(阿蘇郡西原村)に至る経緯

第1回やさまち発見隊(阿蘇郡西原村)を実施するにあたって、やさしいまちづくりに積極的な取り組みを行っている阿蘇郡西原村をモデル地域として選定し、地元中学校および西原村行政関係者、西原村観光推進協議会の協力を仰ぐ。

### (1)第1回会議

会議日 : 平成23年11月4日(金)

場所 : NPO法人UDくまもと事務所

#### ①出席者

##### ●熊本県

健康福祉部健康福祉政策課福祉のまちづくり室	下村 正宣 氏
〃	川崎 秀忠 氏
〃	福島 恵美 氏

##### ●NPO法人UDくまもと

矢ヶ部孝志  
大川 幸恵  
北山 信一

#### ②会議内容

本事業の趣旨説明及び、今後のスケジュール等の確認が行われた。

本事業実施に際し、熊本県とUDくまもとの役割分担の確認及び、評価表作成についての事前協議を行った。

この場において、西原村立西原中学校生徒会への協力要請を行う事が決定された。

## (2)第2回会議

会議日：平成23年11月7日(月)

場所：西原村立西原中学校

### ①出席者

#### ●西原村

西原村立西原中学校校長 竹下 良一 氏  
同中学校生徒会および各学級長 (10名)

#### ●熊本県

健康福祉部健康福祉政策課福祉のまちづくり室 下村 正宣 氏  
〃 川崎 秀忠 氏  
〃 福島 恵美 氏

#### ●NPO法人UDくまもと

矢ヶ部孝志  
大川 幸恵

### ②会議内容

やさまち発見隊モデル事業基本計画の説明及び協力の要請が主題。

生徒たちに自分たちが調査に訪れたい施設の聞き取りに始まり、候補先の選定および日程調整を行った。また、学校側からの提案として、協力施設の皆様へ学校で育てた花を贈呈したいことなどが意見として上る。

実施期日は平日の授業の内、総合学習の時間を充てることとし、5時限目6時限目の14時から16時までの間を目安とすることが決定。

## (3)第3回会議

会議日：平成23年11月22日(火)

場所：県庁新館3階健康福祉部健康福祉政策課福祉のまちづくり室

### ①出席者

#### ●熊本県

健康福祉部健康福祉政策課福祉のまちづくり室 下村 正宣 氏  
〃 川崎 秀忠 氏  
〃 福島 恵美 氏

●NPO法人UDくまもと

矢ヶ部孝志

大川 幸恵

②会議内容

これまでの進捗状況の報告が主題。

最優良施設への表彰状に使用する印鑑作成に関する版内容の相互確認と調査表における表現方法について打合わせを行った。

また、同日事前に実施したUDくまもとによる下見の結果から、進行スケジュールの策定を行うと共に、時間的制約によるスケジュールの緊密化に対して柔軟に対応する旨の話し合いが行われた。

### 3. 第1回やさまち発見隊（阿蘇郡西原村）の概要

(1) 名称

第1回やさまち発見隊（阿蘇郡西原村）

(2) 開催日程

場 所 阿蘇郡西原村地域

日 時 2011年12月6日（火）13：30（西原村立西原中学校集合）

日 程 13：30 調査のポイントについてブリーフィング  
↓  
↓ ・それぞれの施設においてハード面ソフト面の  
↓ 両面から調査表を用いた調査を行う。  
↓  
↓ ・体験用車いすを4台/高齢者体験用具2組を用意。  
↓ 安全配慮説明等説明、用具使用の講習を行う。  
14：00 A班B班に分かれて車に分乗 調査開始  
↓  
↓ ・各施設からの聞き取り  
↓  
↓ ・情報の取りまとめと評価表記載、その他  
↓  
↓ ・生徒たちが育てた花（プランター）の寄贈（各）  
↓  
↓ （※スケジュールとコースは次ページ（3）に記載）  
16：00 西原中学校に帰集 集計および表彰準備  
↓

準備ができ次第生徒の代表とともに表彰施設へ出向き表彰を行う。

(3) 施設訪問スケジュール及びコース

Ⓐ班	Ⓑ班
西原中学校 14:00 出発	西原中学校 14:00 出発
ふるさと市場 14:05 着(15分)	ゆい 14:10 着(20分)
しん 14:25 着(10分)	萌の里 14:35 着(20分)
泉力の湯 14:40 着(20分)	泉力の湯 15:00 着(20分)
萌の里 15:05 着(20分)	しん 15:25 着(10分)
ゆい 15:30 着(20分)	ふるさと市場 15:40 着(15分)
西原中学校 16:00 到着	西原中学校 16:00 到着

※( )内の時間は、調査・質問等にかかった時間

4. やさまち発見隊参加者名簿

●総合コーディネーター  
西原村観光推進協議会 小椋 清市 氏

●総合オブザーバー  
西原村立西原中学校長 竹下 良一 氏

●西原村立西原中学校より  
1年1組 3名(男子1名・女子2名)  
1年2組 3名(男子1名・女子2名)  
2年1組 6名(男子4名・女子2名)  
2年2組 6名(男子5名・女子1名)  
以上18名

●A班リーダースタッフ  
・熊本県健康福祉部健康福祉政策課福祉のまちづくり室より

川崎 秀忠 氏

福島 恵美 氏

- ・UDくまもとスタッフ

北山 信一

- ・オブザーバー

西原村立西原中学校 教頭

●B班リーダースタッフ

- ・熊本県健康福祉部健康福祉政策課福祉のまちづくり室より

下村 正宣 氏

- ・UDくまもとスタッフ

矢ヶ部孝志

大川 幸恵

- ・オブザーバー

西原村観光推進協議会 小椋 清市 氏



## 5. 実施検証課題

### (1) 調査表に基づく調査

ハード面における調査検証については、調査票（別途添付資料1）の内容を実際に車いすや高齢者体験キットを利用して検証し、出入り口のアプローチ、店内施設、トイレ設備などの調査を行った。

ソフト面については、事前に調査した店ならではの取り組みに加え、主にホスピタリティー(おもてなし)を評価する調査検証を行った。

## (2) モデル地域としての可能性の検証

今回の西原村でのやさまち発見隊は今後、県内各地で行われるであろう、やさまち発見隊のモデルケースでもある。そのため、地域の選択、発見隊の人選から進行、併せて調査票の内容の検証も並行して行った。

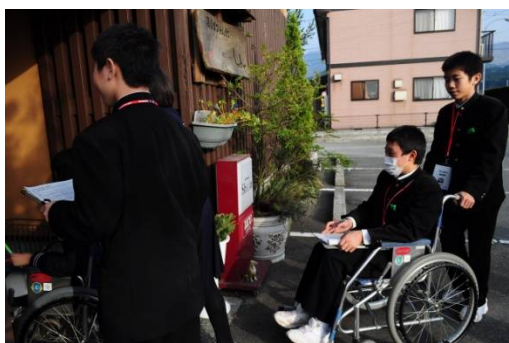
## 6. 検証結果

### (1) やさまち発見隊の調査結果

西原中学校に帰集後、A班B班それぞれから調査票を回収し、即時集計を行った。その結果今回の調査対象施設の中で最も評価が高かった施設は「俵山交流館 萌の里」と決定した。その場において表彰状を作成し、各班の代表生徒2名とともに、「俵山交流館 萌の里」にて表彰式を行った。

※尚、集計結果は以下の通り

●順位		●合計点数
1位	俵山交流館 萌の里	1106点
2位	泉力の湯	973点
3位	ふるさと市場	773点
4位	しん	757点
5位	ゆい	708点



### (2) 実施内容についての検証

調査を実際に行ったのが中学生という事もあり、どうしてもハード面の評価へ目が行くという点は否めなかった。調査票のあり方についても含めて一考の余地があると言える。

「ソフト面＝やさしい取り組み」という捉え方は、こちらがある程度想起示唆しないと理解しにくい要素と言え、やはり事前に時間をとって説明をしっかりと行うことが必要である。

今回は授業時間を利用しての発見隊実施という事で、実施時間が2時間という制約があり、店舗オーナーの取り組みに対する思いなどを話していただく時間が取れなかったことも一因と言えるだろう。より充実な結果を得るには、5ヶ所といえども半日程度の時間が必要となる。

また、さまざまな体験を並行して行ったことも視点が混乱する要因になったと言える。今後に関しては、車いす体験ではなく実際の車いすユーザー、高齢者体験ではなく実際に高齢者に参加してもらうことが、より良い結果に結び付くと思われる。当事者としての意見が聴取できなかったことは次回へ向けての課題であると言える。

やさまち発見隊本来の目的のひとつである、事業者のユニバーサルデザイン(以下、UDという)への意識付けに関しては、ある程度インパクトのある実施内容であったと思われるが、今後にご協力いただく事業者からもなんらかのアンケートを実施するなどの方策をとり、実効性を確かめる必要があるだろう。



### (3) モデル地域・モデルケースとしての検証

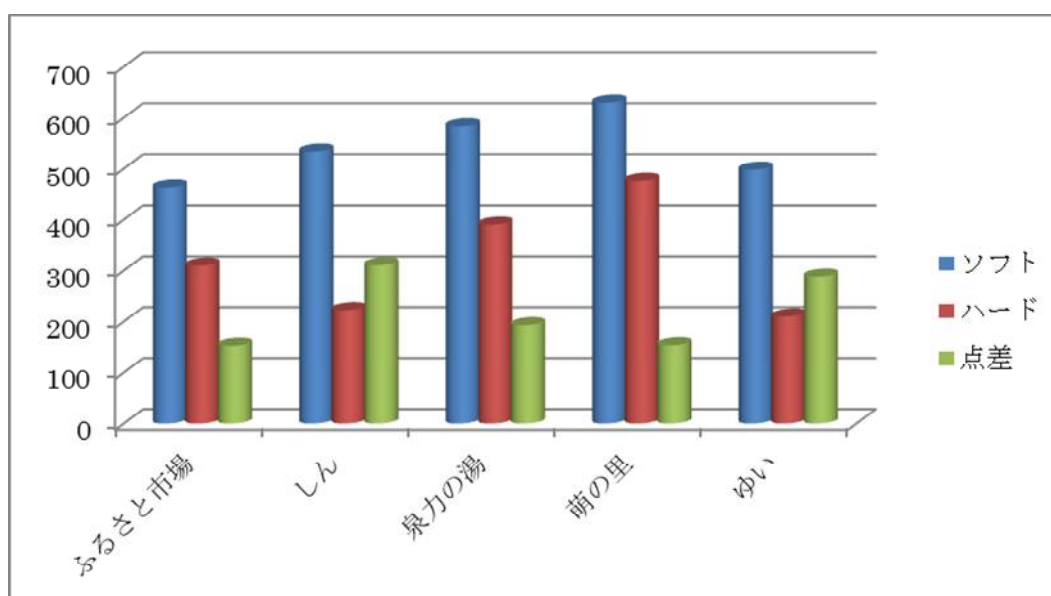
上記のとおりメンバーの人選に関しては、健常者、障がい者、子どもなど多様なメンバーで実施する必要がある。これに伴い、評価項目の中にそれぞれの立場からのコメントや評価を加えると、より充実した評価基準が生まれるものと思われる。調査票の結果については、以下のような分析結果を得た。



●採点方法及び調査票のあり方についての分析

	ソフト面	ハード面	点差
ふるさと市場	463	310	153
しん	534	223	311
泉力の湯	583	390	193
萌の里	630	476	154
ゆい	498	210	288

グラフ①



今回の調査において、ハード面、ソフト面の両面から評価を行ったが、中学生が実際にどのようにそれぞれ評価を行ったかについて分析を行った。

グラフ①の結果から分かるように、ハード面の評価が高い施設ほどハードとソフトの点差に開きが少なく、結果的に高評価につながっていることが分かる。逆に、「ゆい」、「しん」、などハード面での評価が低いところではソフト面の評価も低く、『お手伝いします』看板の取り組みなどを積極的に行っているにも関わらず評価につながっていない。

このように、ソフト面の取り組みについては事業者の熱意や努力が短時間では、子どもたちに伝わらなかったことが見て取れる。時間的制約や人選の要因の他にソフト面の評価項目の中には、「萌の里」や「泉力の湯」のように接客を実際に見ないと評価し難いものもある一方で、当時準備中であった「しん」や「ゆい」などは、そもそも評価が出来ていなかったことも一因だろう。

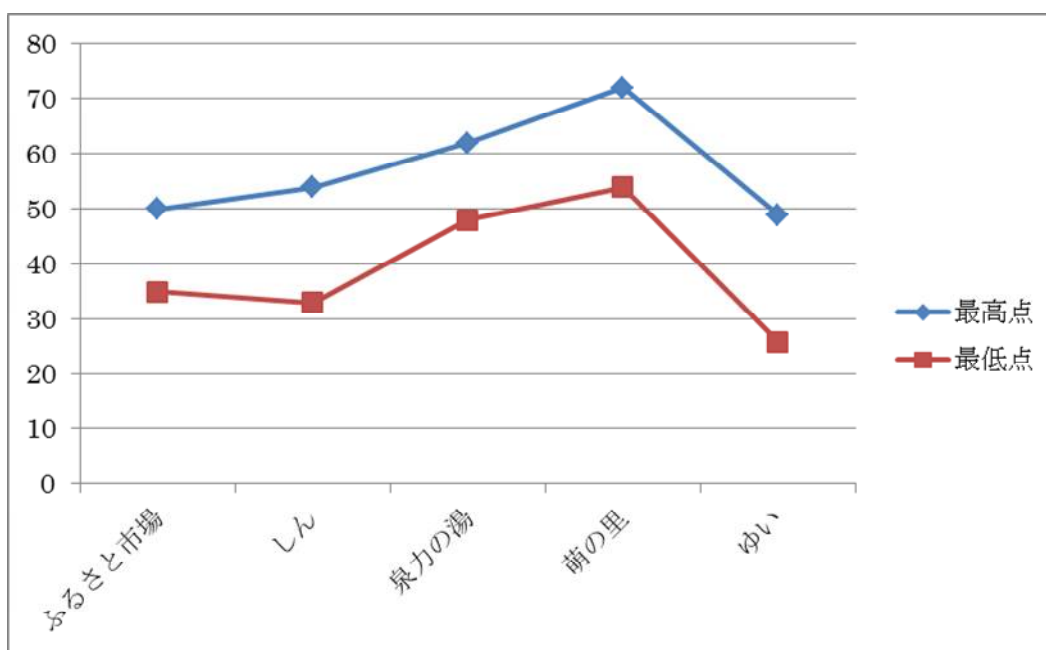
現実的には個人で経営している「しん」や「ゆい」がより積極的にUDや

ホスピタリティー向上に取り組んでいる現実も存在し、得られるはずの高評価が生まれないという現実は悩ましい要素のひとつ。今回の評価結果の乖離についても、今後の検討課題であると言えるだろう。

●各項目5点の評価方法を用いたことの分析

	最高点	最低点
ふるさと市場	50	35
しん	54	33
泉力の湯	62	48
萌の里	72	54
ゆい	49	26

グラフ②



調査票それぞれの項目について5点評価を行ったことによって、各施設の評価点数に個人差が生まれることから、評価順位にどの程度のばらつきが出るのかを分析した。それぞれの施設について、生徒各自がつけた点数のうち最高点と最低点を調査し、施設ごとの順位に違いがあるかをグラフ化している。

グラフ②から分かるように最高点、最低点、共に順位に変動はなく一定の開きがあるにとどまり、結果順位に影響はないことが見て取れる。

5点評価をすることによって、明快に○×で評価しにくいソフト面の評価

などが容易になり、より現実に近い評価ができることもあり、今後のやさまち発見隊の実施においても今回の評価方式を踏襲することが妥当であると思われる。



## 7. 事後調査の結果

今後へ向けての課題を受けて、協力施設に対して事後アンケート調査を行った。(別途添付資料2)

複数回答があったが、「車椅子使用者が見やすいように陳列の方法を考えたい」、「外回りの段差を滑らかにしたい」など、施設についての改善点のほかに、「他の地域に波及させるためには、参加当事者との交流会なども必要では」、といった意見も見られた。

回答のあった施設は、オーナー施設だけであった。オーナーが直接対応にあたった施設は、やはり施設の改善面においても回答しやすく、このような結果になったと思われる。従業員の立場からでは、施設の整備にまでは言及できないことから、今後の調査基準やアンケートにおいても考慮すべき点だといえる。

また、事前に参加するグループとの交流の時間を持ち、ソフト面での取り組みをアピールするなど、お互いに顔が見えるようにしておく、より充実した取り組みになるとと思われる。

西原中学校においては、やさまち発見隊の実施以後、校内で「やさまち発見隊」の取り組みを発表し、参加した子どもたちの表彰が行われたり、学校便りを通じて全保護者に対し、取り組みをアピールするなど、積極的に告知が行われた。

今回参加した生徒たちは、その後も西原村社会福祉協議会のぎく荘で行われた「のぎくまつり」に協力し、1年生の指導にあたるなどボランティア活動のリーダー的存在になっている。

このように、課題も見つかったが、参加した生徒たちにとっては新たなステ

ップを踏み出す機会につながる取り組みになったことは予想外に大きな収穫であった。

## 8. 今後へ向けて

以上の結果を受けて、今後の課題を検証する。

- ①やさまち発見隊のメンバー人選に関しては、より多様化する必要がある。
- ②ある程度の件数を調査するためには半日程度の時間を要する。
- ③協力施設側からも意見を聴取できるしくみを作る事が必要である。  
これによって、より一層のUD化への意識付けを行う。
- ④施設経営者からの取り組みをアピールする時間を設けて、参加者がソフト面の評価を正しく行えるようにする必要がある。
- ⑤調査票はどの施設でも公平に評価できる項目に統一する。

これらの課題をクリアすることによって、本事業の趣旨である地域の子供たちによる自分の街のやさしい取り組みの発見と施設のUD化の促進普及が図れるものと期待したい。